

# 第10回 山口県小学校体育実技研修会 実施報告

- 1 趣旨 小学校体育科における器械運動領域の効果的な指導法について研修し、体育授業の充実に向けた教員の指導力の向上を図る。
- 2 主催 山口県小学校体育連盟 山口県小学校教育研究会体育研究部  
“運動大好き やまぐちっ子” 育成連絡協議会（代表団体：山口県教育委員会）
- 3 後援 山口県教育委員会
- 4 日時 平成26年7月31日（木） 9：30～15：30
- 5 会場 やまぐちリフレッシュパーク体育館
- 6 講師 東京学芸大学教育学部 准教授 水島 宏一 先生
- 7 参加者 小学校教員、中学校教員 140名
- 8 内容 テーマ「器械運動の動きと学び」

## 指導講話（9：40～11：00）

学習指導要領解説をもとに、器械運動の技の系統性についてご指導いただきました。器械運動の学習内容は、小学校で90%もの技を学習するため、小学生の間に技の習得はもちろん、器械運動の価値についても学ばせてほしいということでした。

逆上がりができない子に、「がんばって」という言葉をかけるだけでなく、どうやったらできるかといった「やり方」を教えてあげてほしいということでした。また、教師が教えていないことを評価してはいけない。教師が教えたことでできるようになったことをしっかり評価してあげてくださいということでした。そのためには、教師自身が技を構造的に理解しておく必要があるので、実技も含めた教材研究が欠かせないということでした。



## 実技指導（11:00~12:00）（13:00~15:20）

マット運動では、基本となる「ゆりかご」を何度も行い、転がる感覚、手でマットを押す感覚をつかみました。「ワニ歩き」は、水島先生の本物そっくりな迫力のある歩き方のお手本を見ながら、手足をしっかり曲げて力強くワニ歩きをすることができました。「開脚前転」では、マットを重ねてちょっとした段差を作ることで、足を伸ばしたままマットを押して立ち上がる感覚をつかむことができ、スモールステップの大切さを学ぶことができました。



跳び箱運動では、先生の「開脚跳び」「台上前転」などのお手本に、まずは感動させられました。さすがオリンピック選手という勢いのある大きな試技でした。うまくいかない子の例もすぐにやってみせてくださり、どのように指導するとその子がうまくできるようになるのかというポイントも教えていただきました。また、二人で一人の補助をするやり方についても詳しく教えていただきました。



実技の間、先生は、全体をよく観察されており、困っている人のところにすぐに駆けつけていらっしゃいました。うまくできない原因を見つけて解説され、やって見せられながら練習方法や場を紹介されました。そして、うまくできるようになるとできたことを褒めておられました。このようにすると子どもも伸びるのだなと実感することができました。

また、先生の個人用のタブレットも3つ貸していただき、動画を撮ってそれを確認しながら練習することもできました。指導方法まで参考になる実技指導でした。